

立ち読み版



青森市長

おのでら

あきひこ

小野寺 晃彦さん

1975年生まれ。県立青森高校卒業後、東京大学経済学部に進学。卒業後は自治省（現・総務省）に入省する。宮崎市財務部長、愛知県財政課長など地方自治体での勤務を経験し、地域力創造グループ地域政策課理事官として地方創生に力を注ぐ。退職後、青森市長選に立候補して当選、2016年11月に市長に就任。中小企業診断士の資格は2015年に取得。

[写真] 有限会社フォトシバタ 柴田 康生

診断士資格を持つ首長の挑戦 「青森市をチャレンジの街にしたい！」

[取材・文] 原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役・高知大学客員教授・成城大学非常勤講師。中小企業診断士。早稲田大学法学部卒業後、大手メーカー、株式会社リクルートでの勤務を経て、独立。産学公個に対し、採用・育成・人事制度構築など、人材関係の幅広い提案を行う。著書に『採用水河期』（日本経済新聞出版社）、『優れた企業は日本流』（扶桑社）、『インタビューの教科書』（同友館）など多数。

HARA'S
BEFORE

地方創生は、現在の日本の大きな課題である。小野寺市長の活躍はよく耳にしていた。おそらく日本で唯一の中小企業診断士である市長は、その知見をどのように市政に活かしているのか。地域の課題をどのようにとらえ、どういった解決の戦略を描いているのか――。



Umano! | Akihiko Onodera

3つの緊急課題を半年で解決

原：まずは、市長に就任されてからのこれまでのご活動を教えてください。

小野寺：青森駅前にあるアウガという建物は、24億円の借金を抱えた第3セクターが経営していました。市長就任時に直面したのは、この借金をどうするかという、いわば「経営問題」でした。さらに、市役所の移転、青森駅前の再開発をめぐるJRとの関係性の亀裂という、この3つの大きな問題が絡まり合っていた時期に、私は市長に就任したのです。

いずれも緊急課題として、超短期での解決に注力せざるを得ませんでした。市役所の移転・

建て替えについては当初、10階建てで計画されていたものを3階にダウンサイズし、残りの7階分をアウガに居抜きで入れることで、2つの課題をセットで解決しました。「そんなこと、できるわけがない」という声が多かったですが、やり切ることができました。JRとの関係も、「駅前再開発をやる」と方針を決めたことで修復しました。超短期の重要課題3つをほぼ半年間で解決したことは、市民の皆様にも評価いただけたと思っています。

原：市長が方針に掲げておられる「仕事づくり」というのは、地方における重要なテーマですね。仕事が増えて、人が集まり、街がにぎわうというお考えはその通りだと思います。具体的にどのように進めていますか。

小野寺：今日この取材をお受けしている場所は、「青森スタートアップセンター」といいます。その前は、ここにはカプセルホテルとプールとフィットネスジムがあったのですが、経営がうまくいかなくて、ゴーストビルという惨憺たる状態でした。商工会議所が腹を据えてここに移転してきて、1階をスタートアップセンターとして開放し、仕事づくりの「センター・オブ・センター」にしようとしています。インキュベーションマネージャーという専門の相談員を置いて、キッチンがあったり、日本酒のバーをやったりして、人が集えて相談できる場所になっています。

「産官連携」として、商工会議所と市役所が本気で起業すると宣言し、その象徴としてこの場所を開いてもらったんです。スタートアップセンターは、以前は商店街の中にあっただけ

続きは雑誌で